

■卒FIT後の買い取り価格

北海道電力	8円
東北電力	9円
東京電力	8.5円
JXTGエネルギー	8~11円
出光昭和シェル	7.5~9.5円
スマートテック	10~11.5円
シェアリングエネルギー	8円
東京ガス	9.5円

1kWhあたり。経済産業省などの資料をもとに作成。大手電力は自社エリアの価格。

「卒FIT」争奪 新電力タッグ

太陽光新契約 対象家庭へアピール

国の固定価格買い取り制度（FIT）による高額買い取りが終わる家庭用の太陽光発電で、大手電力や新電力による争奪戦が1日、始まった。新電力は大手電力に比べ、新たな買い取り価格を高く提示しアピールするが、対象家庭がどこにあるのか分からないのが悩み。新電力同士で連絡会をつくり共同戦線をはる動きも出てきた。

家庭用の太陽光は2009年11月、余剰分を大手電力が買い取る制度が始まり、期間は10年のため、今年11月から順次終わる。「卒FIT」と呼ばれ、年内に原価2基分にあたる約200万キロワット（約53万件）が、23年末までに累計で約670万キロワット（約165万件）が「卒業」を迎える。その後も、家庭が

売電を続けるには、新たに契約を結ぶ必要がある。FITによる買い取り価格は1キロワット時あたり最大48円だが、卒FIT後の新たな買い取り価格について大手電力は7.9円（標準プラン）を提示している。新電力は大手電力より数円高いプランを用意し、新規顧客の開拓を狙う。だが、卒FIT家庭がどこに



太陽光発電設備を備えた家が並ぶ住宅街

あり、買い取り期間満了がいつなのかという情報は、電気を買い取ってきた大手電力しか持っていない。

そんな中、家庭向けの電力小売り事業を営むLooop（東京）とJXTGエネルギー、大阪ガスは、

「卒FIT買取事業者連絡会」を10月に設立。大手電力がFITの買い取り期間満了通知を対象の家庭に発送する際には、同連絡会の会員企業による買い取りプランやサービスの情報を同封してもらう予定だ。家庭向け新電力トップの東京ガスなども、同連絡会への加入手続きを進めている。

電気料金比較サイトを運営するエネチェンジ（東京）は、どこと契約すればお得かを無料相談できる「でんきコンシェルジュ」をウェブサイト（<https://enechange.jp/specials/sotsu-fit>）に開設。電話相談（0800・500・5691）もできる。（桜井林太郎、伊藤弘毅）